

海外だより

カタールの近況

光 島 昭 三*

カタール国はアラビア半島の東岸中央部よりアラビア湾に突き出た半島に位置し、面積は岐阜県程度で国土の大半は平坦な土漠でおおわれている。4月から10月までの長い夏季は、砂漠地帯特有の酷暑が続き、盛夏時日中の気温は45～50℃に達することが多いが、時たま発生する高い湿温の日を除いてはきわめて乾燥していて比較的しのぎやすい。人口は約20万人でそのうちカタール人は1/3程度で残りは国外の移住者からなり、また人口の大半(約16万人)は首都ドーハに集中している。

Qatar Steel Company Limited (以下 QASCO) は首都ドーハの南約40kmのウム・サイド工業団地に、直接還元から棒鋼圧延までの一貫製鉄所としてカタール国と日本との合弁会社(カタール政府70%、神戸製鋼20%、東京貿易10%)として1974年10月に設立された。製鉄所の建設は順調に進み、開所式は1978年4月に国王シェイク・カリファ・ビン・ハマド・アルサニーニ臨席の下に盛大に挙行され、以後順調に営業運転を行っている。

主要な設備は以下のとおり、

- (1) 直接還元炉(年産40万t)
- (2) 電気炉(70トン×2基)
- (3) 連続鋳造設備(4ストランド×2基)
- (4) 棒鋼圧延ミル(年産33万t)

当社は製鉄所の建設に引き続き、QASCOの経営運営

を委託されて、マネージメント要員を派遣して操業指導はもとより経営に必要な日常業務を遂行している。現在当社より派遣されているマネージメント要員は約130人で、カタール人、エジプト人、インド人、バングラデシュ人など14ヶ国人よりなる現地従業員約1000人を指導しながら製鉄所の運営に当たっている。

製品は10～32mmの建設用鉄筋棒鋼で80%は輸出に振り向けられており、主な仕向地はサウジアラビア、クウェート、アラブ首長国連邦でその他にバーレン、ヨルダン、イラク、オーマンなどがある。これらの輸出先から、納期が正確で品質面でも日本品と同等かそれ以上との評価を受けており、引き合いも活発である。このため棒鋼生産実績も昨年5月には34000t、6月33600t、7月36200tと公称能力を大きく上回った操業を続けている。一昨年4月から年末までの棒鋼生産114千tに対し、昨年度の生産実績は12月末までで379千tに達している。また圧延工場の操業実績において、6月、7月共に世界でもトップレベルにある低いミスロール率0.089%(1万本の圧延で8.9本のミスロール)を達成しており、圧延歩留もほぼ100%に近い水準にある。操業開始後1年たらずでこのような高操業度と高生産性を達成できたのは、最近における世界的な棒鋼需要と市況の好転に恵まれたこともあるが、マネージメント要員が一丸となつて総力を結集したことと現地人従業員の技術レベルが予想以上に早く向上していることによるところが大きいと思われる。経営の第一目標である早期立上りはほぼ達成され、今後の目標はより一層のコスト・ダウンと現地従業員への技術移転をよりスムーズに行うことになる。

現地でのレジャーは日本に比べると限られているが、海水浴は4月から11月頃まで可能で、魚釣りも結構楽しめ、時には2m近いカジキマグロのような大ものが岸壁から釣れる。他にはテニスやショッピングなどで、中近東特有のものは金細工、工芸品など少なく、電気製品・自動車は日本製品が多く、時計・装飾品・陶器などは欧米の一流銘柄品を近代的なスーパーマーケットや商店で比較的安く入手できる。また、野菜・果物・肉・魚や雑貨はスークと呼ばれる市場に豊富にある。

カタールは48万バレル/日の石油を産出する産油国の一つであるが、他のアラブ諸国に先がけて工業化が



写真1 Overall view of QASCO.

* (株)神戸製鋼所神戸本社

開始され、製鉄所の他にセメント工場、製粉工場、肥料工場、LPG 工場が既に稼動中であり、現在も新 LPG 工場、エチレン・ポリエチレン工場の建設が着々と進ん

でいる。首都ドーハの町並も、近代的なビルがつつぎと建設されまた高速道路の建設と並行した街路樹の植え付けにより日々装いを新たなものにしつつある。

欧文誌 (Trans. ISIJ) への講演概要 (第 99 回大会) 投稿案内

本会は会員各位の研究成果の発表の一つとして、講演大会を年 2 回 (春・秋) 開催いたしております。編集委員会では当講演大会をより良くするため、ポスターセッション方式による講演の導入や、最近では欧文誌を通して広く海外からの参加を呼びかけるなど種々検討を重ねております。

ご承知の通りわが国における鉄鋼生産技術は世界の注目を集めており、その成果及び動向が最も早く把握できる手段は当春秋講演大会およびその講演概要集であります。海外においても当講演内容には非常に関心が高く、本会への講演内容に関する問い合わせは相当の数にのぼっております。

以上のことから本会編集委員会で種々検討の結果、春秋の講演を早い時期に欧文誌で海外に紹介することは大変有益であるとのことから、昭和 55 年 1 月発行の欧文誌から講演概要 (英文) を掲載することに決定いたし、試みに今春秋の講演中より英文講演概要を勧誘いたしました所、大変好評をいただき、今 99 回 (昭和 55 年 4 月) 大会から公募を行うことになりましたので、下記により奮ってご投稿下さいますようお願い申し上げます。

記

- I. 原稿締切日 昭和 55 年 4 月 30 日 (水) (以降は受付られません)
(55 年 1 月 11 日締切の講演原稿 (和文) と同時提出も可)
- II. 原稿枚数 本会所定の原稿用紙 1 枚 (図、表、写真を含む)
(お申し出いただければ所定原稿用紙を送付いたします)
- III. 原稿内容 原稿は講演概演 (和文) の内容とまったく同じものを原則とします。やむを得ず内容が異なる場合は、改めて英文原稿の和文直訳を同封して下さい。
- IV. 執筆の仕方 執筆者がタイプされた原稿がそのまま約 80% 縮尺され、オフセット印刷されますので下記ご留意のうえご執筆下さるようお願いいたします。
 - 1) タイプライターはカーボンリボンを使用し (ファブリックリボンは不可)、活字は原則としてエリート (12 pitch) で single space (64 行)、2 段打ちにして下さい。
 - 2) 図、表、写真は縮尺を考慮し作成して下さい。
 - 3) 英文タイトルは講演申込用紙に記入されたものが英文校閲のうえ講演概要集に掲載されますので、そのタイトルに従って下さい。
- V. 原稿提出
 - 1) 投稿のさいは、最初に副原稿 (コピー原稿) 1 枚をご提出下さい。そのコピー原稿により英文校閲がなされ、その結果が編集委員会より連絡されますので、そのうえで本原稿を提出願います。
 - 2) 上記締切日以降は受付られません。
 注) 講演概要投稿後、投稿規程に従って Research Article として投稿されることを歓迎いたします。
- VI. 欧文誌掲載
 - 1) 掲載にあたっては英文校閲がなされますので、結果によつては英文修正を依頼することがあります。
 - 2) 欧文誌 (Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan) Vol 20 (1980) No. 9~12 に亘つて掲載されます。
- VII. 原稿送付先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3 階
 問い合わせ先 日本鉄鋼協会編集課欧文誌係 (Tel. 03-279-6021)